

地域研究シリーズ

5

東南アジア

経済

堀井健三 編

アジア経済研究所

地域研究シリーズ

5

東南アジア
経済

堀井健三 編

アジア経済研究所

「地域研究シリーズ」の刊行にあたって

アジア経済研究所は日本における発展途上諸国研究の主要な機関の一つであるが、1990年に特殊法人としての創立30周年を迎え、いくつかの記念行事を行っている。この「地域研究シリーズ」の刊行もその一つである。

「地域研究」とは何を意味するかについてここで立ち入ることはできないが、それがこれまでアジア経済研究所の主要な柱の一つであったことは間違いない。創立30周年を機に、われわれは、これまでの研究の成果を振り返ることによって、地域研究とは何か、それはどのようにしてなされるのか、これまでそれによって発展途上諸国の何を明らかにしてきたか、何に役立つのか、そして、今後の課題は何かを示そうとした。その結果がこのシリーズの刊行である。

シリーズは14巻から構成され、平成3年から4年にかけて刊行される予定である。また英文による別巻の刊行も予定されている。

その第1巻は「地域研究論」と題されている。これは、地域研究の目的と方法、地域研究と社会科学、地域研究の当面の課題をあつかった書き下ろしの書物で、シリーズ全体の序論をなしている。

第2巻から第14巻までの各巻は別掲のように地域別に構成され、いずれも第I部の総論と第II部の収録論文の二つの部分からなっている。第I部の総論は、それぞれの編者が、その巻の主題の範囲でアジア経済研究所におけるこれまでの地域研究の主要な流れと成果、日本の研究状況におけるその位置づけ、今後の課題などを論じた書き下ろしの論文である。

これに対し、第II部は、その巻の主題についてこれまでアジア経済研究所でなされた地域研究の成果の中から平均およそ11~12本の論文の全文あるいは抜粋部分を原著者のご承諾を得た上で収録し、同研究所におけるこれまで

の主要な成果の概観が得られるように配列したものである。したがって第I部と第II部とはそれぞれ独自の価値を有し、併せて読まれるべきものと考えている。

第II部への収録論文の選定はアジア経済研究所の公式の判断によるものではなく、あくまでもそれぞれの巻の編者の責任でなされたものである。多くの業績の中から何を取るかはそれぞれの編者にとって最も苦心の存するところであった。第I部の叙述と第II部への収録の仕方の中に地域研究についての各編者の考えがうかがえるといつてよいのである。

収録にあたっては、編集上の統一を図り、明らかな誤植を訂正したほかは、もとの論文になんらの変更も加えていない。また、抜粋にあたっては、それがもとの論文のどの部分に当るかが分かるように工夫した。収録をご承諾いただいた原著者のかたがたに厚くお礼申し上げたい。

このシリーズは、日本における発展途上諸国についての研究のかなり大きな部分を示したものとして、各方面のかたがたに関心をもっていただけるものと信じている。

なお、英文の別巻は、第1巻および第2巻から第14巻までの第I部をもとにして、アジア経済研究所における地域研究の成果が英語の読者に理解されるように構成する予定である。

シリーズ作成の母体となったのは地域研究部におかれた「地域研究の課題と展望」研究会で、その委員は各巻の編者および清水元の諸氏である。しかし、この研究会では、それぞれの分担はあっても、シリーズを共同の所産とするために地域研究の考え方や論文収録の基準などについて繰り返し熱心な討議を行ったが、その際にはいつも研究所内から委員以外の多くの人々も参加した。また、このシリーズが30周年記念事業の一つであるということから、研究所内の各部門がさまざまな形の援助を惜しまれなかった。ここでは特に加藤孝之、服部民夫、岩佐佳英、橋本眞治、重城忠純の各氏のお名前を記したい。さらに、アジア経済出版会社長の田中生男氏はこのシリーズに深く関心を示され、実際にシリーズ刊行の仕事を担当された同出版会のかたがたか

らは編集上いくつもの有益な提案をいただいた。30年間の地域研究の検討と整理という面倒な仕事をともかくも軌道に乗せることができたのはこれらすべてのかたがたのおかげである。ここに心から感謝の意を表したい。

平成3年3月

「地域研究の課題と展望」研究会主査 山口博一

目 次

第 I 部 総 論

はじめに	5
第 1 章 日本の東南アジア研究史瞥見	7
I 戦前・戦中の調査研究	7
II 戦後（1945～60年）の調査研究の特質	10
第 2 章 アジア経済研究所の東南アジア経済研究	13
I 時期区分と成果の特徴	13
II 国別・主題別分類	15
第 3 章 農村調査・農業経済研究	21
I 農村・農業研究の主な潮流	21
II 屋敷地共住集団と農地相続および農業経営論争	23
III 国別成果	24
第 4 章 工業化政策と経済主体の形成	29
第 5 章 経済史研究——植民地支配から独立国家へ——	33
第 6 章 「地域研究論」の試み	37
おわりに——課題と展望——	41
引用文献	43

第Ⅱ部 東南アジア経済論

第1章 農村実態調査の諸成果

- | | | | |
|---|--|------|-----|
| 1 | フィリピン農村の構造変化と賃労働者層 | 高橋 彰 | 61 |
| 2 | フィリピンにおける「緑の革命」と農民
—中部ルソン、ヌエバ・エシハ州の1村落事例を中心として— | 梅原弘光 | 89 |
| 3 | FELDA (マレーシア) オイル・パーム入植地における
栽培組織と所得配分 | 堀井健三 | 113 |
| | —ブロック・システムの実態調査事例— | | |
| 4 | 下ビルマ米作村の農業労働者 | 斎藤照子 | 137 |
| | —チュンガレー村におけるその実態— | | |

第2章 土地改革の理論と政策

- | | | | |
|---|---------------------------|------|-----|
| 5 | 現代アジアにおける土地改革の基本性格に関する一考察 | | |
| | | 滝川 勉 | 161 |

第3章 土地制度史と農村社会・経済史

- | | | | |
|---|------------------------|------|-----|
| 6 | タイ土地制度史ノート | 友杉 孝 | 183 |
| | —タイ農村社会史の試み— | | |
| 7 | タイにおける「屋敷地共住集団」と集落の社会史 | 北原 淳 | 209 |
| 8 | ジャワ農村経済史研究の視座変換 | 加納啓良 | 230 |
| | —「インボリューション」テーゼの批判的検討— | | |

第4章 経営者と企業集団の形成史

- | | | | |
|---|-----------------|------|-----|
| 9 | タイ系企業集団の資本蓄積構造 | 末廣 昭 | 262 |
| | —製造業グループを中心として— | | |

東南アジア
経済

ほり いけんぞう

堀井健三 (大東文化大学国際関係学部教授, 前アジア経済研究所地域研究部
主任調査研究員)

主要著作

Rice Economy and Land Tenure in West Malaysia アジ
ア経済研究所 1981年

*Impact of the New Economic Policy on the Malaysian
Economy* (共著) アジア経済研究所 1986年

『マレーシアの社会再編と種族問題——プミプトラ政策
20年の帰結——』(編著) アジア経済研究所 1989年

『マレーシアの工業化——多民族国家と工業化の展開
——』(編著) アジア経済研究所 1991年

東南アジア 経済

地域研究シリーズ5

1992年3月18日発行©

定価3193円(本体3100円)

編者 堀井健三

発行所 アジア経済研究所

東京都新宿区市谷本村町42 電話 東京(3353)4231(代)

発売所 アジア経済出版会

東京都新宿区市谷本村町42 電話 東京(3353)1640

振替 東京5-143692

印刷所 勝美印刷株式会社

ISBN4-258-22005-1 C3333

地域研究シリーズ

5

東南アジア
経済